

埼臨技だより

発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7 TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095

URL:<http://www.sairingi.com/> 携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第43回 埼玉県医学検査学会だより

【運営部】

第43回埼玉県医学検査学会まで残り4ヵ月となりました。演者の皆様は演題・抄録の登録を終えてほっと一息ついている頃ではないでしょうか。実行委員は学会が近づくにつれて、次第に忙しさを増してきていると同時にモチベーションが上がってきております。学会の当日に皆様と「つ・な・が・る」ため、素晴らしい学会にするために全力で頑張っておりますので、多数の方々のご来場を心よりお待ちしております。

前号で小林さんに見事なスルーパスを出されたため、今号は学会運営部の多くの活動の中から、私が作成を受け持っている学会ホームページのみどころを、少しですが紹介させていただきます。



今年の学会ホームページのみどころは、やはり活動記録と実行委員の紹介です。

活動記録は、実行委員会や学術部会などの活動写真や一口メモを掲載しており、実行委員会の雰囲気などが伝わるように紹介しております。実行委員の紹介は、二度目ですが皆様と「つ・な・が・る」ために各々のPRや自慢の一枚を掲載しております。今後もどんどん更新をしていく予定ですので、是非ご覧になってください。そして、ホームページをより一層盛り上げるため、皆様方の素晴らしいご意見・ご感想をお待ちしております。

(文責：手塚祐太)

【学術部】

私が初めて埼玉県学会に参加してから約10年・・・まさか実行委員になる日が来るとは・・・。

昨年の10月から活動を始め、気が付けばもう8月。これから抄録の確認作業が始まります。今年の演題数は160・・・改めて埼玉県の凄さを感じました。学術部としては嬉しいかぎりです。

手塚さんが自身の活動を紹介しているので私も簡単に紹介を・・・。私は今、必死に特別講演等の講師の先生方へ依頼状を作成しています。依頼状を作成するのは初めてですが、やはり日本語は難しい・・・。

今年は学会特別講演に加えてSkill up Project1～3と題した企画を行います。特別講演では当院の大村健二先生をお呼びして栄養管理と検査のつながりについて講演していただき、Skill up Projectでは1.看護師、薬剤師の方をまじえてチーム医療について、2.採血と神経損傷について、3.一般、病理、生理検査の観点からみたピットフォール症例のポイントといった内容で各先生方に講演していただきます。どれも魅力的で聞きたいなあ・・・でも、一般演題も聞きたいしなあ・・・と、多くの方に悩んでいただけるような素晴らしい学会になるように、今後も（は）頑張っていきたいと思えます。

第43回埼玉県医学検査学会のご利用（参加）は計画的に・・・。

（文責：柴田真明）



● 平成26年度 第1回 検査室運営研修会のお知らせ ●



来たる9月30日(火) 日臨技会長 宮島氏が
埼玉の地に来たりて、熱く語る!!

『これからの臨床検査技師!!
新たな“業務認証”に向けて』

平成26年度 第1回 検査室運営研修会は、メインテーマを「これからの臨床検査技師!!」として、一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 会長 宮島 喜文 氏と、平成24・25年度日臨技 前チーム医療推進検討委員会 委員長 奥田 勲 氏をお迎えし、未来ある埼玉県の臨床検査技師の皆様に向け、新たな“業務認証”に向けたメッセージを頂く研修会を企画しました。

臨床検査技師として働き続けるために、臨床検査技師の現状・状況・地位、そして戦略等、新たな“業務認証”に向けての取り組みについて、お話していただけるものと思えます。

検査室運営のリーダーシップとなる管理職ならびに、これからの検査室を運営する中堅以上の皆様、そして、実際に検査室を動かしている未来を見つめる若い検査技師の皆様にも、熱いメッセージを持ち帰っていただける研修会となることと思えます。

宮島日臨技会長自ら、埼臨技の皆様にご直接伝えたいという意向もあり、各施設中堅以上の皆様には、積極的な参加を望みます。また、これからの埼臨技を背負って行く若い皆様にも積極的な参加を期待します。

開催日時：平成26年 9月30日(火) 18:45～21:00

開催場所：大宮ソニックシティ 906号室



埼臨技 津田会長より、応援メッセージ

「臨床検査技師」は生き残れるか?!

今、会員のほとんどの皆さんは「臨床検査技師」として働いておられると思います。が、しかし、永遠に「臨床検査技師」は生き残って行けるでしょうか？

少子高齢化・人口減少、これらはすでに現実です。ある極端な将来予測のグラフでは西暦2080年に日本の人口は今の半分になる、というシミュレーションもあります。もし人口が半分になったら、医療従事者も病院も、そして臨床検査技師も半分になればちょうどいいのでしょうか？ それこそで大変ではないのでしょうか？

日本の高齢化の進み具合は世界の中で、有史以来、最高速だと言われています。働いて、国を支える世代の割合はどんどん小さく、高齢者の割合はグングン大きくなっています。医療費はどんどん膨らみ、介護費用はグングン増え続けているのです。どこかで折り合いを付けなくては「破たん」より「爆発」になってしまいます。

こうした環境の中で、今までと同じ様に働いていて、いつまでも「臨床検査技師」として“安泰”で居られるのでしょうか？

「チーム医療に参画して・・・」と言われていきます。お手伝いをするのは面倒だあって思いませんか？ お手伝いをするのではなく、自分の仕事の領域を増やすと考えませんか！ この領域は他職種ではなく検査技師にやってもらわなくては困る！って言われるようになって、「絶対にこの人数は必要だ」って言われる「検査技師」になろうじゃありませんか！

まずは、検査室の「中だけ」から、チーム医療のメンバーの「中へ」、一步を踏み出しませんか!?

※“業務認証”とは……以前「業務拡大」と言っていた。「拡大して行く」というより「認めてもらって進めて行く」、というイメージを持たせて、昨今頻繁に使われている業界用語。



1. 日本臨床衛生検査技師会 無料職業紹介所 WEBサイト開設について

この度、日臨技では、無料職業紹介事業の利用者の利便性を考慮し、ホームページでの運用システムを新たに構築し、平成26年7月15日から日臨技ホームページトップページ無料職業紹介により運用を開始いたしましたのでお知らせいたします。

臨床・衛生検査技師無料職業紹介所 Webサイト

<http://jamtjamtis.jamt.or.jp/Jeo/Account/Home.aspx>

2. 第5回埼臨技理事会は天候の影響により 中止となりました。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 精度管理の基礎と新しい免疫蛍光分析法について学びましょう

主催 血清検査研究班

実施日時：平成26年 3月14日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ604号室 点数：専門教科－20点

講 師：中脇 修二（バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社）

参加人数：会員32名 賛助会員 3名

出席した研究班班員：齊藤雅一 庄司和春 佐野悦子 相坂由里子 鈴木淳子 持田和紀
大島まり子

研修内容・感想など

今回は、中脇氏による講演で、講演Ⅰ：精度管理の基礎、マルチルールについて、血清検査における精度管理 講演Ⅱ：新しい免疫蛍光分析法BioPlex2200の紹介の2演題であった。

検査室内の精度管理である内部精度管理は、精度管理コントロール値が管理範囲を逸脱しない（ $\pm 2SD$ 以内）場合、その検体の測定値は臨床診断に寄与できるが、範囲を逸脱した場合、再測定・機器のメンテナンス等の対応が必要と説明を受けた。

血清検査は、測定機器や測定試薬に使用している抗体の特異性により測定値が異なることが多々あるが、生化学検査項目と同様の標準化を目標としている。そのため、現状における血清検査の精度管理は、予め各々の測定試薬・測定機器ごとに測定した値を評価する際の目標値と定めたいうで評価を実施している。

今回紹介を受けたバイオ・ラッドの精度管理コントロールには血清検査及び生化学の項目が数多くある。特徴は、参考値を提示し、40項目のマルチコントロール・長い有効期間（2.5年）の保証が確立していることである。さらに、Webによるデータ更新・外部精度管理サービスUnityに参加することにより広範囲な精度管理が可能である。

今回の研修会で紹介されたBioPlex2200は、従来の煩雑な間接蛍光抗体法を用いて測定していた自己抗体をフローサイトメトリーで検出する機器である。現在は、自己抗体と感染症項目のみであるが、それ以外の項目も測定可能になるように開発されることを希望する。

（文責：大島まり子）

テーマ 遺伝子検査をもっと身近に ～病理検体からの遺伝子検査～

主催 病理検査研究班

実施日時：平成26年 4月18日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター13集会室 点数：専門教科－20点

実 技：i-densy-IS5320を用いたEGFR、K-ras検査

講 師：蛭名 秀峰（アークレイマーケティング株式会社）

講 演 1：遺伝子検査の基礎知識と「i-densy-IS5320」の実用例

講 師：蛭名 秀峰（アークレイマーケティング株式会社）

講 演 2：病理検査室における「i-densy-IS5320」の使用経験

講 師：土田 秀（群馬県立がんセンター）

協 賛：アークレイマーケティング株式会社

参加人数：会員34名 非会員 5名

出席した研究班班員：渡邊俊宏 荻真里子 金泉恵美子 岡村卓哉 三鍋慎也 関口久男
高橋俊介 森田繁 沼上秀博

研修内容・感想など

昨今の病理検査の内容は様変わりしてきており、そのひとつに病理検体を用いた遺伝子検査が活用されるようになってきている。これは肺がんのEGFR変異や、大腸がんのK-ras変異に代表されるような遺伝子検査をもとに治療効果の予測が期待されるためである。これら遺伝子検査の依頼数は軒並み増加傾向にあり、加えて臨床側より報告日数の短縮を望まれている。アークレイマーケティング株式会社より開発された遺伝子解析装置「i-densy-IS5320」は、このような背景に沿うように、手軽に遺伝子検査が行える機器であるとのことで、今回の研修会では実

機でのデモンストレーションを交えた機器の紹介と遺伝子検査の基礎知識について講演をしていただいた。また、導入を目指されている土田技師よりユーザーレポートを講演していただいた。

遺伝子検査の自動化の進歩は、将来的に一般病院でも普及が進んでいくと思われる。院内検査に導入ということも考慮すべき私たちは、その知識や技術を習熟していくことの必要性を感じられた。本研修会でも今回のようなテーマを順次取り上げていくように努めていきたい。

(文責：沼上秀博)

テーマ 異常反応への対応

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成26年 6月13日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ905号室 点数：基礎教科－20点

講 演 1：初心者から当直者までこんなときどうしますか？【初級 血液型編】

講 演 2：初心者から当直者までこんなときどうしますか？【初級 不規則抗体編】

講 師：講演1：今井 厚子（埼玉医科大学総合医療センター）

講演2：長谷川卓也（上尾中央総合病院）

参加人数：会員82名 賛助会員1名

出席した研究班班員：渡邊一儀 武関雄二 神戸考裕 長谷川卓也 今井厚子 洞庭敬子

齋藤翔子 黒田果織 佐藤祥子

研修内容・感想など

今年度第2回目の研修会では、初心者や当直時のみ輸血検査を行なう技師を対象に行なった。

はじめに、今井技師から『初級 血液型編』について、ABO血液型の判定法やオモテ・ウラ試験不一致の原因について講義していただいた。初心者対象ということで、症例問題を中心にオモテ・ウラ試験不一致になった場合、結果をどのように解釈し、結果報告にどれくらい待てるのかによってどのような対応するのかなど、状況によって対応が変わってくるということが大変わかりやすく教えていただいた。

次に長谷川技師から『初級 不規則抗体編』について、不規則抗体検査の目的や消去法について詳しく講義していただいた。講演の最後に症例問題を3例実施し、不規則抗体スクリーニングで陽性となった場合、どのような輸血製剤を選択するのか、また非特異反応が疑われた場合どのような対処をするのかなど解説していただいた。洗浄に用いる生理食塩水を自家調整している施設もあるが、その調整した生理食塩水のpH変化によって、検査に影響が出てくるという興味深い話も聞くことができた。

今回の研修会では血液型・不規則抗体について基礎から講義していただき、研修会後のアンケートでも『内容がわかりやすく、基礎を再確認できた』という意見が多かった。7月に行なわれる実技研修会においてもルーチン検査や当直業務に生かすことのできる研修会を行ないたい。

(文責：齋藤翔子)

テーマ 凝固検査は採血時から始まっている。 採血手技・検査・最新情報、盛りだくさん過ぎる内容！

主催 血液検査研究班

実施日時：平成26年 6月26日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ604号室 点数：専門教科－20点

講 師：須永 宏行（積水メディカル株式会社 カスタマーサポートセンター 学術東日本グループ）

参加人数：会員80名

出席した研究班班員：星孝夫 網野育雄 根岸永和 羽鳥浩司 田中正 橋口恵子 原誠則

圓田和人 岡安幸子 軍司雅代

研修内容・感想など

専門用語の基礎知識から始まり、難解な分野として敬遠されがちな凝固検査のメカニズム、抗凝固薬の比較、INR/ISIの考え方、測定の基礎からパニック値への対応まで、ポイントを抑え豊富なスライドと共に分かりやすく解説された。

PT・APTTについては、今一度添付文書の記載を確認し、PTはヘパリン中和剤が入っている

か、どの程度のヘパリン添加で凝固時間が延長するかを把握することが重要であり、APTTは試薬によりヘパリン感受性が異なる点や、抗生物質の種類によりビタミンKが阻害され凝固異常をきたす事などが示された。また、クロスミキシング試験（APTT）については、直後と37℃ 2時間インキュベート後の両者のグラフの見方が解説され、凝固因子欠乏・インヒビターのほか、抗リン脂質抗体症候群を推察するには、試薬中のリン脂質の量が重要である点など、測定方法のみにとらわれず、試薬の組成にも同等に目を向けることの重要性を再認識した。

検査の基本である採血については、標準採血法ガイドライン（GPA-A2）を交えて解説された。日頃採血の現場に携わっている技師も多い中、基本に立ち返って、採血管およびその検査値を慎重に取り扱うべきであると締めくくられた。また、線溶系や採血管内凝固、血管内凝固（DIC・DVT・肺塞栓）、血栓症関連マーカー、さらには新しい抗凝固薬（Xa阻害剤、トロンビン阻害剤）についての最近の知見が紹介され腎機能への影響（BUN/クレアチニン比による病態識別）も考慮すべきとのことであった。

今回の研修で、異常データの問い合わせ時に適切なコンサルテーションが出来るよう、知識の整理をしておくことは大事なことだと感じた。

（文責：橋口恵子）

テーマ 夏季に流行する感染症

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成26年 6月27日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ802号室 点数：専門教科－20点

講 師：内田 和江（埼玉県衛生研究所）

参加人数：会員35名 賛助会員 2名

出席した研究班班員：穴原賢治 榊原外江 長崎広美 立塚梓 菊地孝司

研修内容・感想など

今回の研修会は、『夏季に流行する感染症』と題し、内田先生に講演していただいた。講師はウイルス検査の専門家であることから、夏季に流行の見られるウイルス感染症である手足口病、ヘルパンギーナ、急性出血性結膜炎、無菌性髄膜炎の話題が中心となった。

ウイルス感染症はインフルエンザ、RSウイルス等の冬に流行する感染症のイメージが強いが、ヘルパンギーナや手足口病は6～8月の夏季に感染のピークが見られる。両疾患ともピコルナウイルス科に属するエンテロウイルス属を病原体とする感染症で、乳幼児または小児を中心に毎年流行が見られている。中枢神経合併症の他、ごく稀に爪甲変形症といった合併症を続発する場合もあり、確定診断及びその流行状況を把握することは重要となっている。

ウイルス検査は大きく①ウイルス分離②抗原検出③遺伝子診断④血清学的診断の4つに分類される。現在はPCR法を用いた遺伝子診断が主流となっており、細胞培養によるウイルス分離も並行して実施されている。

今回、講師には感染症発生動向調査対象疾患の紹介から検体採取、輸送そして検査方法にわたるまで講演していただいた。また、電子顕微鏡で撮影した各種ウイルス写真も紹介いただき、大変貴重な研修会であった。

（文責：菊地孝司）

テーマ 輸血前検査の実施とその意義

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成26年 7月 6日 10時00分～16時40分

会 場：埼玉県済生会栗橋病院 点数：専門教科－20点

主 題：1) 講義 輸血前検査の実施とその意義

2) 実技研修会（試験管法）

Aコース：ABO・Rh血液型検査、不規則抗体スクリーニング検査

Bコース：直接抗グロブリン試験、抗体解離試験、不規則抗体同定検査

講 師：1) 古杉 光明（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社）

2) 輸血検査研究班班員

協 賛：オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

参加人数：会員46名(3名午前のみ) 賛助会員4名
出席した研究班班員：渡邊一義 山田攻 武関雄二 佐藤祥子 洞庭敬子 今井厚子
長谷川卓也 齋藤翔子 神戸考裕

研修内容・感想など

午前中は実技研修会前の講義として「輸血前検査の実施とその意義」のテーマで古杉氏に講義をしていただいた。ABO・Rh血液型検査、不規則抗体検査について基本的な手技の注意点から異常反応への対応までわかり易く解説していただき、直接抗グロブリン試験の意味や解離試験の必要性、解離液が陽性を示し特異性がある場合の考え方などの説明があり興味深い内容であった。

午後の実技講習会は2つのコースに分け、Aコースが初級者を対象としたABO・Rh血液型検査と不規則抗体スクリーニング検査、Bコースは中級者を想定した直接抗グロブリン試験、抗体解離試験、不規則抗体同定試験の内容であった。Aコースの受講者はABO・Rh血液型検査の異常反応への対応について関心を示していた。Bコースの不規則抗体検査では消去法に関する質問が多く、量的効果の考え方や否定できない抗体をどこまで含めるかなど、積極的に質問する姿が見られた。信頼性の高い輸血検査は安全な輸血に繋がるので、研修会で学んだことを輸血検査業務に活かせることができれば幸いである。
(文責：神戸考裕)



テーマ 不良標本撲滅宣言！ ～病理標本の品質向上を目指して～

主催 病理検査研究班

実施日時：平成26年 7月11日 19時00分～21時00分

会場：浦和コミュニティーセンター13集会室 点数：専門教科ー20点

講演 1：切り出し・包埋編

講師：金泉恵美子（埼玉協同病院）

講演 2：脱脂・脱灰・固定編

講師：細沼 佑介（埼玉医科大学国際医療センター）

講演 3：薄切編

講師：関口 久男（埼玉県済生会栗橋病院）

講演 4：染色・封入編

講師：三鍋 慎也（防衛医科大学校病院）

参加人数：会員55名 非会員5名

出席した研究班班員：渡邊俊宏 岡村卓哉 森田繁 荻真里子 金泉恵美子 三鍋慎也
細沼佑介 関口久男 高橋俊介 沼上秀博

研修内容・感想など

病理検査での主たる業務に“病理組織標本作製”がある。昨今の病理検査では自動化が進みつつあるが、技術的には昔と大差はなく、多くの工程を経て作製されているのが実情である。これら工程に何らかの不適切な処理があった場合には、アーチファクトが現れ、時には不良標本となってしまふ。この不良標本を病理医に提出してしまうと、鏡検の妨げや診断に支障を及ぼす可能性もあり得る。

今回の研修会では不良標本撲滅を目的として4名の研究班員から、それぞれの作業工程で発生しやすいアーチファクトについて問題形式に出題していただき、その原因と対策について講義していただいた。これらは病理検査として初歩的な知識ではあるが、日頃よりアーチファクトに気付く意識が大切であり、その対策の術を心得ておく必要性を考えさせられる内容であった。

日常の業務ではアーチファクトを起こしうる可能性が数多く潜んでいるが、品質向上に向けたいわゆる“こだわり”を持った姿勢で取り組んでいけばきっと不良標本は撲滅されるのではなかろうか。研究班としても今後もこのようなテーマを継続してとりあげていきたい。

(文責：沼上秀博)

埼臨技ひろば

バスケットボール部(バスケ部)を 立ち上げます!

まずは第1回バスケットボール大会を開催致しますので先着20名のメンバーを募集します。運動したい方集まれ! 未経験者大歓迎です。下記世話役までメールで連絡ください。

【参加申し込み先】

世話役: 小関 紀之 (獨協医科大学越谷病院 臨床検査部)

メール: n-ozeki@dokkyomed.ac.jp



第1回バスケットボール大会開催予定

日 時: 平成26年9月20日(土) 18:30~21:00

会 場: 伊奈中学校 体育館

求人案内

○医療法人三慶会 指扇病院

採用条件: 正職員 臨時職員

連絡先: 048-623-1103 総務課 関根

○医療法人康麗会 越谷誠和病院

採用条件: 正職員

連絡先: 048-966-2711 総務課 高野

○医療法人社団明雄会 三芳の森病院

採用条件: 臨時職員

連絡先: 049-274-7911 事務長 町田幸枝

○医療法人 安東病院

採用条件: 正職員

連絡先: 070-6555-4946 採用担当 長澤

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あ と が き

この埼臨技だよりが届くころ、夏の高校野球も大詰めに迎えていることであろう。今年も地方大会から多くの話題があった。東東京代表の二松学舎は過去決勝戦で10連敗、11度目で初優勝。石川県代表の星稜は、決勝戦9回裏0-8から奇跡の大逆転で甲子園行きを掴んだ。

このような情報を知ってみると、面白さも倍増する。事前に勉強会などで情報得て仕事をすれば、面白さも倍増する!! かもしれません。

(猪浦 記)

